

2014年12月1日  
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦  
担当ワーキンググループ主査 長谷川 弘

カメルーン国 バチエンガ - レナ間道路整備事業(有償資金協力)  
環境レビューに対する助言

### **助言案検討の経緯**

#### ワーキンググループ会合

- ・日時：2014年11月10日(月)14:00～16:56
- ・場所：JICA 本部 (会議室：1階 112 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：作本委員、塩田委員、谷本委員、二宮委員、長谷川委員、松下委員
- ・議題：カメルーン国 バチエンガ - レナ間道路整備事業に係る環境レビュー方針についての助言案作成
- ・配布資料：
  - 1)カメルーン国バチエンガ - レナ間道路整備事業環境レビュー方針案
  - 2)案件概要説明資料
  - 3) Environmental and Social Impact Assessment Study for Batchenga - Ntui - Yoko - Tibati Ngaoundere Facilitation Programe
  - 4) Comprehensive Resettlement Plan for Batchenga - Ntui - Yoko - Tibati - Ngaoundere Facilitation Programe
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

#### 全体会合 (第54回委員会)

- ・日時：2014年12月1日(月)14:30～17:21
- ・場所：JICA 本部 (会議室：1階 113 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

## **助言**

### **全体事項**

1. JICA 融資対象区間と不可分一体の事業に関する環境社会配慮及びその対策について、他ドナーや実施機関と協議・確認を行うこと。
2. JICA 融資対象区間について、経済性を含めた事業の効果を確認すること。
3. 道路の維持管理について、組織体制・予算確保の観点から法制度整備の重要性を他のドナーを含め、実施機関と確認すること。

### **環境配慮**

4. 工事中・供用後の振動の影響について、緩和策の有無及びその内容を実施機関に確認すること。
5. 野生生物の生息状況に関して、別途行われる予定のインベントリー調査の結果、懸念すべき事項が明らかになった場合には、適切な緩和策が実施されるよう、環境レビュー時に実施機関に確認し、合意をすること。
6. 住民移転後に廃棄物や水質汚濁等の環境問題が発生しないよう、移転地の整備について実施機関と協議の上、合意すること。

### **社会配慮**

7. JICA 融資対象区間の非自発的住民移転数の算定根拠について確認すること。
8. JICA 融資対象区間の社会・自然環境面での Negative Impacts に関わる対策については、事業の進捗状況に合わせてドナー会議等の場で具体的に確認すること。
9. 道路の用地幅の確保においては、他ドナー支援区間と歩調を合わせて、土地の所有権の移転が速やかに行われるよう、他ドナー及び実施機関と確認すること。
10. 住民移転によって生計手段を失う住民に対する支援策の詳細について、改めて実施機関に確認すること。
11. 被影響住民が苦情申し立て手続きについて理解できるよう、丁寧に周知することを実施機関に申し入れること。

### **ステークホルダー協議・情報公開**

12. 住民移転に関連する被影響住民の意見の詳細につき、環境レビューにおいて確認すること。

### **その他**

13. モニタリング計画の詳細について、その概要・体制等について確認すること。